

令和3年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	小平市男女共同参画推進計画から考える連続講座事業
団体名	こだいら DV 防止ネットワーク
担当課名	地域振興部市民協働・男女参画推進課

①目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価 : 1	担当課自己評価 : 1
<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進計画策定に向けた地域懇談会と併せた講座によって、男女共同参画について市民のなかで考える機会を作る意味を共有し、当日のプログラムの中では我々市民団体側からもパブリックコメントへの参加の呼び掛けを行うなど、共通の目的理解のもとに事業を進めた。 ・計画策定のための地域懇談会とともに開催し、パブリックコメントの周知につなげることを認識を持ちながら、事業を推進した。 	

②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価 : 1	担当課自己評価 : 1
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの立場を尊重しつつそれぞれの役割を明確にして事業を進めた。 ・双方の強みを活かしながら、役割と責任を明確にし、事業の実施に向けて取り組むことができた。 	

③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価 : 1	担当課自己評価 : 1
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの、また共通の理念や使命の理解のもと、必要に応じて自分たちの立場や考え方を相手に伝えながら柔軟な対応が図られた。 ・当課主管の小平市男女共同参画センターの利用登録団体であるため、互いの理念や使命、考え方は十分に理解しており、考えの異なる際にも話し合いのうえ、柔軟に執り行われた。 	

④対等関係（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価 : 1	担当課自己評価 : 1
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、適宜必要な話し合いを重ね、調整を行いながら事業を進めた。 ・講座の流れや会場の配置など、話し合いや現場での調整を重ね、互いの合意のもと決定した。 	

⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）

団体自己評価 : 1	担当課自己評価 : 1
<ul style="list-style-type: none"> ・事業を進めてゆく中での様々な情報について、メールや電話、面談も含めて十分な情報の共有ができた。 ・定期的に話し合いの場を設けたり、メールでのやり取り、また随時来庁いただき、十分な情報共有を行った。 	

⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
<ul style="list-style-type: none"> ・準備から講座当日の運営まで、具体的な役割についてお互いの分担と責任を定め、混乱なく事業を進めることが出来た。 ・役割については当初より明確に、会議での司会や議事録作成を交代で担当したり、講座当日についても、互いにあらかじめ決められた役割を担い、円滑な事業運営へとつながった。 	

⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）

団体自己評価：1	担当課自己評価：1
<ul style="list-style-type: none"> ・講座の企画においては我々のメンバーの繋がりや情報・発想を活かし、当日の運営においてもメンバーのスキルをいかすことができた。 ・協働で団体の経験、つながりを活かした講座企画により、市単独ではなしえない効果的な講座の実施となった。 	

⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）

団体自己評価：2	担当課自己評価：1
<ul style="list-style-type: none"> ・講演の内容は良いものにすることが出来たと考えるが、地域懇談会との同時開催となり時間の関係で質疑応答や意見交換が全ての回ではできなかった。 ・計画策定のための地域懇談会とともに講座を開催し、パブリックコメントを周知することができた。 	

⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）

団体自己評価：2	担当課自己評価：1
<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画について、制度や政策を含め自分の足元につながる地域の問題・社会の課題として、市民の中で考える機会を作ることが出来た。コロナ禍の中で、オンラインと会場をあわせ、できるだけ広い間口で講座への参加を募ることが出来たと考えるが、できればより多くの市民に参加してほしい。 ・団体として後日、3回の講座の概要をまとめたニュースを発行した。講座を記録として残すとともに、参加できなかった市民に知らせ、講座の成果を当会の啓発活動に将来的に利用し、課題の解決につなげていきたい。 ・地域懇談会で出た意見を団体としてまとめ、パブリックコメントとして提出した。「小平アクティブプラン 21」に反映され、未来に向かって見える形で課題が解決して行くことを願っている。 ・計画策定のための地域懇談会とともにジェンダー平等をめざすオンライン連続講座を開催し、男女共同参画意識の向上を図った。また、会場とオンラインでの併用開催により、子育て中の方や外出が困難な方など、だれもが参加しやすい講座を提供することができた。 	

⑩その他意見（提案団体から）

男女共同参画については、今後も様々な機会を活かし、学びの場や情報が提供され、地域の中で理解が進むことで、それぞれの困難が緩和され、生きやすい、誰もが受け入れられることを実感できる小平になってゆくことを望む。

※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかった